

新発田市 令和8年度 第3回定例記者会見(概要)

- 1 日 時 令和8年5月29日(金)午前11時～
- 2 場 所 ヨリネスしばた501会議室
- 3 内 容

【市長発表項目】

○「五大びらき」の開催について

「寺びらき」に始まり、「蔵びらき」「杜びらき」、「閣びらき」に加え、今年は「庭びらき」が加わり、まちなかが「ひらかれる」2日間をPRしたい。

○「運動遊び出前講座」について

運動が好きな子も、苦手な子も、体を動かす意欲を育てる幼児運動事業をPRしたい。

○「いらっしゃいませ！」園児が店員に挑戦

市内の保育園児がイオン新発田店で行う職場体験をPRしたい。

○【新発田市×アルビレックス新潟】SHIBATA 環境アクション

二葉小学校で県内初のJリーグ環境教育事業を実施。新発田農業高校生がアルビレックス新潟U-18選手と行う取組をPRしたい。

○香港の小学生が来訪し、市内の小学生と交流を行います！

香港の小学生が市内の小学生と交流します。給食や、田植え、日本の文化を体験するメニュー。海外に向けたスタディ・ツーリズムをPRしたい。

【その他】

- 商店街クリーン作戦を開催します
- 「小早川毅彦氏野球教室」
- 市民コンサート2026
- 令和8年度しばたあやめまつりの開催について
- 令和8年度「城下町新発田まつり」開催決定
- 新発田あやめ寄席「林家たい平、三遊亭円楽 落語会」
- 日本語ボランティア養成講座を開催します
- 歴史探訪ウォーク
- 男女共同参画週間イベント

あいさつ

明後日の知事選は関心事の一つである。

もう一つの関心事は、巨人軍の阿部監督の事件。これは、私たちにとっても身近な問題でもある。私にも息子が二人いて、よく兄弟喧嘩をしていたが、喧嘩両成敗で二人を叱っていた。その際、「兄弟同士仲良くせよ」ということを教える意味合いで二人の頭を小突くくらいはやっていた。

阿部監督は頑強なプロ野球の選手であり、18歳の娘と比較しても体力差があり、ちょっと小突いただけでも暴力と見做されてしまうのかもしれない。

ヘレンケラーがまだ自分が何者かも分からず、家族からもこの子はおかしいと思われていた幼少時に、サリバン先生は「自分は人間だ」ということ、そして「人間として行っては駄目なこと、行わなければ駄目なこと」を体罰を用いて教えたと聞いている。

そういう意味では、阿部監督の行為の是非はともかく、自分の元へ彼の復帰の嘆願書が来れば、きっと書くだらうなと思っている。

実は、このことにあまり関心はなく、一番の関心事は娘がAIに対応を相談し、児童相談所に電話をかけ、その結果、警察に通報されたという点で、アナログ人間である私にとっては不思議であり、そういう時代なのかと改めて思わされた。

昨年、武蔵村山市の市長選挙において、候補者の一人がまちの歴史や自分が立候補した経緯などを生成AIに入力し、わずか数分でマニフェストを完成させ、また、選挙戦の第一声まで生成AIに作らせたとの記事が産経新聞に掲載された。各社の記者がその候補者に質問を投げかけたが、彼は必ずスマホを片手に答えていた。記者からは、「AIの回答ではなく、あなた本人の生の声を聞きたい」と申し出があったが、最後までスマホを手放さず、AIで生成された回答を話していたそうである。結果として落選したが、今後、まちづくりにおいても常に生成AIやチャットボットを小脇に抱えておかなければならない時代がくることは、アナログ人間である私にも理解できる。

しかし、今回の阿部監督の娘の例のように、一般家庭の問題に

おいても AI に相談をすることが日常化するのかと驚く。デジタル化は避けては通れないし、かといってアナログが駄目なのかということでもない。デジタルとアナログは一枚のコインのようであればならないと思う。デジタル化が進んでも、その裏にはアナログがあり、表裏一体であると私は捉えている。阿部監督のこの事件が未来を暗示している一つ事象ではないかと思っている。

それでは、会見項目を説明いたします。
はじめに、「五大びらき」の開催についてです。

- 6月6日（土）と6月7日（日）の2日間、新発田のまちなか^{てら}を舞台に、毎年1万人以上が来場する人気イベント「寺びらき」、「^{かく}閣びらき」、「^{くら}蔵びらき」、「^{やしろ}社びらき」を開催します。
- 今年は新たに「^{にわ}庭びらき」が加わり、「五大びらき」として開催することとなりました。
- 「寺びらき」では、テラマチノ市や写経・座禅体験、「^{かく}閣びらき」では、蔵春閣を背景にしたステージイベント、「^{くら}社びらき」では、諏訪神社において神前結婚式やよさこい奉納演舞、「^{やしろ}蔵びらき」では、五階菱前広場にて振る舞い酒やマルシェなど、それぞれ特色のある催しを実施いたします。
- また、新たに加わる「^{にわ}庭びらき」では、「清水園」「大倉庭園」に加え、通常非公開の「^{せきせんそう}石泉荘」、「^{たいこうそう}苔香荘」を特別公開し、新発田が誇る庭園文化を楽しんでいただけます。
- 5つの「びらき」が連携することで、新発田のまちなか全体が「ひらかれる」2日間となります。
- 新発田駅前から中心市街地まで、まち歩きを楽しみながら、新発田ならではの歴史、文化、人の温かさにふれていただき、多くの皆様に新発田の魅力を味わっていただけることを期待しております。

次に、「運動遊び出前講座」についてです。

- 当市では市内保育園等を対象に、幼児期からの運動習慣定着と運動能力を向上させる目的で、認定NPO法人新発田市総合型地域スポーツクラブ「とらい夢」と連携し、様々な幼児運動事業を実施しております。
- 幼児期は、身体を動かす気持ちよさを知ること、運動する意欲を育むことが特に大切です。
- 運動が得意な子は、より身体を動かすことが好きになるように、運動に苦手意識がある子には、無理なく楽しみながら身体を動かす気持ちよさを体験できるよう促していきます。
- 「運動遊び出前講座」では、とらい夢の講師が直接各園へ出向き、普段子どもたちが活動している施設内で、基本的なストレッチから始まり、園にあるさまざまな道具を使用した運動遊びを行っています。
- 安心した環境の中で専門の知識を備えた講師の下、遊びながら運動を学び体験するという、子どもたちにとっても、保育者にとっても有意義な時間となる、満足度が高い講座であり、市内のほとんどの園で実施されている事業です。
- また今後、秋・冬にも「スポーツ施設はみんなの遊び場」という運動遊び講座を展開予定としております。市内のスポーツ施設を活用し、広い園外環境で、普段園では体験できないような運動遊びを行います。
- 出前講座の今後の実施内容は記載のとおりではありますが、子どもたちが楽しく、時に真剣に運動に取り組む様子を是非取材していただきたいと思っております。

次に、「「いらっしゃいませ！」 園児が店員に挑戦」についてです。

- 6月11日木曜日、午前9時30分から、イオン新発田店におきまして、地元の「松浦保育園」の年長児4名を対象とした、臨時の「小さな店員さん」による職業体験を実施いたします。
- 当日は、本物のレジスターを使った「レジ打ち体験」や、売場での「接客体験」、さらには店内のマイクを使った「アナウンス体験」に挑戦いたします。また、普段は見ることができないお店の裏側を学ぶ「バックヤード見学」もあわせて行います。
- 小さな店員さんたちが、一生懸命にお客様をお迎えする微笑ましくも真剣な姿を、ぜひ温かく見守っていただければと思います。
- 「子育てするならやっぱり新発田」を掲げ、地域全体で子どもたちを育むまちづくりを推進しており、大変心強いことに、この趣旨に企業のみなさまが賛同し、多大なるご協力をいただいております。
- 新発田市とイオン株式会社は、令和6年3月に「地域貢献連携協定」を結んでおり、これまでも産業の連携や市製品の販売促進、健康増進や食育など、幅広い分野で緊密に協力してまいりました。
- 今回の取組も、この協定に基づくものであり、次世代を担う子どもたちが地域の商業活動に触れ、社会の仕組みを楽しく学ぶ貴重な機会になると考えております。

次に、【新発田市・アルビレックス新潟】しばた環境アクションについてです。

- 当市は、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロに向けて、令和7年度からサッカーのアルビレックス新潟と連携し、市民の皆様への情報発信と環境活動を実施しています。
- 1点目にご紹介するのは、県内初となる「^{ジェイ}Jリーグ環境教育授業」です。
- 「^{ジェイ}Jリーグ気候アクションアンバサダー」に認定された、クラブOBの増田^{ますだしげと}繁人さんが講師となり、授業を通して、子どもたちが気候変動の現状や原因を学び、地球環境の未来を守るために何ができるのかを「自分ごと」として捉え、身近な行動変容につなげる機会を創出します。
- 初回は、6月30日(火)に市内二葉小学校で行われます。
また、時期は未定ですが、今年度中にもう一校行う予定です。
- 2点目にご紹介するのは、新発田農業高校とアルビレックス新潟^{アンダー}U-18選手による、新潟聖籠スポーツセンター「アルビレッジ」でのゴーヤ苗植え式であります。
- 今年で2年目の本活動は、新発田農業高校の生徒と^{アンダー}U-18選手が互いに交流を深めながら、地球温暖化防止や夏の省エネに対する意識を高め、それぞれの行動変容につなげることを目的としています。

最後に、「香港の小学生が来訪し、市内の小学生と交流を行います！」についてです。

- この度、当市が進めるインバウンド誘客で誘致した香港の小学生 26 名が当市を訪れ、市立加治川小学校の児童と交流会を行います。
- 当市は、かねてより海外からのインバウンド誘客に力を入れているところではありますが、この度、初めて香港からのスタディ・ツーリズム誘致に繋げることができました。
- 東京からのアクセスが良く、新発田城など城下町の歴史が残っていることや、良質な米の産地であること。何より、この度の国際交流に理解を示し、行政や小学校の協力を得られることが当市を選んでいただいた理由とのことであります。
- 御一行は、6月9日に加治川小学校を訪問し、全児童と交流会を行い、歌やダンスによる歓迎セレモニーのほか、お互いの国の紹介や、日本の伝統的遊びを通じて交流を深める予定です。昼食時には日本の給食文化を体験していただき、交流後は、新発田市の観光を楽しみながら、月岡温泉に宿泊するほか、交流会の翌日には市内の圃場で田植え体験を行います。
- この度の国際交流は、異文化への関心を高め、将来的に国際社会で活躍する人材を育むことにも繋がる有益な機会であることから、子どもたちの育成のためにも、今後も海外からのスタディ・ツーリズムを推進してまいります。

本日お知らせする情報は以上になりますが、他にもお配りした資料のとおりイベントなどを予定しております。

報道各社の皆様におかれましては、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市を御支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。